

—— 安心の提供と震災からの早期復興のために ——

いわき地域復興センターは、「いわき明星大学と東日本国際大学」が連携して、いわき地域に対する震災復興活動を行う拠点として設立されました。「福島県いわき地域の大学連携による震災復興プロジェクト」をテーマとして、両大学が持ついわき地域の魅力の再生に直結する専門性を提供することで、震災からの早期復興を目指します。

- 【事業の4つの柱】
- I 放射線・放射能測定及び軽減に関する研究事業
 - II 震災記録の保存事業
 - III 被災地の情報発信による観光まちづくり事業
 - IV 被災障がい者自立支援促進事業

いわき地域復興センター1年間のご報告

～ 本年度の活動報告書が完成しました ～

このたび、当センターの「平成26年度活動報告書」が完成いたしました。今回はそのご案内とともに、本年度の主な活動内容を、事業ごとに振り返ってご紹介します。当センターは平成24年4月に開所し、来年度で4年目を迎えます。地域の皆さまのお役にたてるよう、復興に向けたさまざまな活動に、なお一層取り組んで参ります。

I 放射線・放射能測定及び軽減に関する研究事業

各種放射能検査の実施 地域連携活動【放射能検査協力等】 除染研究

ホーンタイプ超音波照射装置

←汚染砂試料

高濃度(水)で超音波照射	汚染砂	除去率: 10~20%
汚染砂	洗浄液	放射性セシウム濃度: 不検出
汚染砂	汚染砂	除去率: 50%以上【確実の場合】
各種洗浄液で超音波照射	洗浄液	放射性セシウム濃度: 検出

図 超音波照射による除去過程

II 震災記録の保存事業

震災アーカイブ室一般公開 講演会 写真集発行

パネル展



第3回いわき地域復興センターフォーラム開催



ミニ相談会開催 News Letter 発行



バスツアー開催(いわきの水産業・浜通りスタディ)

III 被災地の情報発信による観光まちづくり事業

making Movie 学生による取材 風景の動画を配信

学生レポート 取材内容を母国語で発信 (韓国語投稿・一部抜粋)

国内国外へ向けた留学生によるいわき地域情報の発信

IV 被災障がい者自立支援促進事業

学生による取材 放射能測定結果報告書

小規模作業所および授産製品の情報発信

FMいわきラジオ番組「いわきグローバルマルシェ」による情報発信 (III・IV事業協働)

「はまどおりのきおく 3- 原発避難のいま -」 開催報告

3月1日(日)、当センター主催 いわき明星大学 震災アーカイブ室 公開講演会を開催し、約60名の方にお集まりいただきました。講演会は、東日本大震災を語り継ぐために開催し、これまでいわき市内の震災の記憶を共有してまいりました。3回目となる今回は、地震・津波被害に加えて原発事故による被災を受けた双葉郡に着目しました。

【プログラム】

～13:00 開会～

1. 開会挨拶

石丸 純一
(いわき明星大学
震災アーカイブ室 室長)

2. 講演者紹介

3. 講演

・賀澤 正氏
(NPO 法人浅見川ゆめ会議
事務局長、広野町出身)

・平山 勉氏
(富岡インサイド / 相双ホラン
ティア主宰、富岡町出身)

・大橋 庸一氏
(いわき・まごころ双葉会
事務局長、双葉町出身)

- 休憩 (15分) -

4. トークセッション

コーディネーター
高木 竜輔
(いわき明星大学 人文学部
現代社会学科 准教授)

～15:40 閉会～

■ 講演

写真とともに出身地の被災及び原発避難の状況、ご自身の体験を振り返り、この4年間の変移についてご説明いただきました。また、現在行っている活動についてご紹介いただきました。



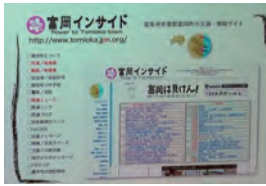
<賀澤正氏>



<広野町の避難所の様子(小野町)>



<平山勉氏>



<ウェブサイトの紹介>



<大橋庸一氏>



<ご自宅の様子>

■ トークセッション

原発事故後の双葉郡における町ごとに置かれた状況の違い、および違いを乗り越えて何ができるのかについて考えるとともに、避難者といわき市民がともに考える場として行いました。それぞれの活動を通じてわかってきた避難元の町のようすや抱えている課題が明らかとなるよう議論が行われました。また、参加者から出された質問の一部についてもご回答いただきました。「震災当初は日本中が同じ方向を向いていた」という平山氏の言葉を受け、コーディネーターは「地域それぞれに初心を見つめ直し、共有していければ」と結びました。



<トークセッションの様子>

右から賀澤氏、平山氏、大橋氏、コーディネーター

■ 非破壊式放射能検査のご案内

3月2日(月)より、いわき市による「自家消費作物等の放射能簡易検査」に「非破壊式検査装置」が加わりました。非破壊式検査装置は、原則として検体(食品)を細かく刻む必要がなく、そのままの状態で行うことができる装置です。これまで実施してきた「細かく刻む検査」も継続しており、いずれも事前予約は不要です。お気軽にご利用ください。

お問い合わせは
いわき地域復興センターまで!



<非破壊式放射能検査装置>

■ 第32回ミニ相談会 開催報告

3月17日(火)「いわき明星大学からの最新情報」をテーマに、超音波照射と塩類を用いた新たな除染方法および放射性セシウムへの移行に関する大学の研究成果についてご紹介しました。また、国などによる放射能汚染土壌・廃棄物の減容化対策や、いわき市による非破壊式放射能検査についてもご紹介しました。参加者から事前に寄せられた疑問・質問が多く、通常より長く交流タイムを設けてお答えしました。



<講師:佐藤 健二
(いわき明星大学 科学技術学部 教授)>



<ミニ相談会の様子>

次回ミニ相談会のご案内 (第33回)

日時:4月14日(火)14:30~16:00 場所:いわき地域復興センター

テーマ:「押し寄せる津波から、どのように子供達を守り抜いたのか ~防災訓練の重要性と実際の対応~」

講師:学校法人志賀学園 久之浜第一幼稚園 園長 青木 孝子氏



文部科学省
平成23年度大学等における
地域復興のためのセンター的機能整備事業

いわき地域復興センター

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾74-8

Tel.0246-38-7132 Fax.0246-38-7134

URL <http://www.revive-uwaki.net/>



● 過去の情報やセンターの詳しい活動内容はHPをご覧ください。 ●